

セイゲイ・クラフチェンコ ヴァイオリンマスタークラス

講師：セルゲイ・クラフチェンコ教授

(チャイコフスキー記念モスクワ国立音楽院教授)

2020年1月29日 TCM ホール



東京音楽大学で貴重なヴァイオリン公開レッスンが行われました。セルゲイ・クラフチェンコ教授の名前は、ヴァイオリンを学ぶ人にとって知らない人はいないといいます。この日のレッスン生は3名。1人1時間ずつ、ロシアの音楽観や奏法などを丁寧にご教授いただきました。

最初のレッスン生の若杉岳史さん(大学3年)は、「意識がよく行き届いていなかったビブラートなど、細かいところを重点的に指導していただいて、分厚くて内容の濃い音楽にしていけたと思います」。2人目の山本志奈さん(付属高校3年)は、「作曲家についてなど、いつもと違う視点からのお話はとても勉強になったし、楽しかったです」。3人目の福田麻子さん(院1年)は、「弾き方のポイントを一言で端的に、またロシア的なレガートとかフレーズの長さなどをわかりやすくご指導いただきました」と。聴講した山村侑さん(ヴィオラ 大学3年)は、「今、ショスタコーヴィチのヴァイオリン協奏曲を勉強していますが、教授はご本人に会ったことのある

ような方なので、日本にいる僕たちには知りえないことを教わることができました。『楽譜にきちんと向き合う、音楽に誠実にあれ』、が刺さりました」と、レッスン終了後に感想を話してくれました。

教授は、「生徒たちのレベルはすばらしく高く、とてもよく準備されていました。彼らと一緒に学べるのはとてもうれしく、私としてはすべての学生がこのように弾いてくれることを願っています」と話されました。

レッスン終了後も質問にいく熱心な聴講生の姿が後を絶たず、それでも教授は一人ひとりに丁寧に対応されました。またの来校の日を楽しみにしています。



(レッスン終了後の記念写真 若杉くんが師事している大谷康子先生も一緒に)

セルゲイ・クラフチェンコ教授のプロフィールはこちらをご覧ください

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/01/80d0900d85622880cadbff748a5223db.pdf>

◆受講生と受講曲目

若杉岳史 (大学 3 年)

D. ショスタコーヴィチ：ヴァイオリン協奏曲 第 1 番 イ短調 作品 77 より 第 3、4 楽章

山本志奈 (付属高校 3 年)

N. パガニーニ：無伴奏ヴァイオリンのための 24 のカプリース Op.1 より 第 22 番 ヘ短調 マルカート
ドヴォルザーク：ヴァイオリン協奏曲 イ短調 Op.53 より 第 1 楽章

福田麻子 (院 1 年)

E. イザイ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第 3 番 ニ短調「バラード」